

資料4

新潟市における新たな交通システムの必要性

<概要>

新潟市における基幹公共交通軸における新たな交通システム導入の必要性を整理する。

<概要>

新潟市における新たな交通システムに求められる機能は、利用者へのサービスである定時性・速達性や利便性や、運行側の指標である輸送力、分かりやすさ、シンボル性、持続可能性、ユニバーサルデザインなどまちづくりの観点も必要となる。

新たな交通システムに求められる機能

基幹公共交通軸において、さらなる利便性向上に向けて既存の公共交通機関であるバスでは限界がある。新たな交通システムに期待される効果について『新たな交通システムに求められる機能』として整理する。

① 公共交通としてのサービス向上に必要な機能

◆ 定時性・速達性

渋滞等の影響を受けずに、他の交通手段より早く、確実に運行できるシステム



専用走行路による定時性・速達性向上

◆ 乗換しやすい（交通結節機能）

他の交通手段との有機的に連携（乗り継ぎなど）した便利な移動しやすいシステム



駅・バス停での乗り換えを楽に

② わかりやすさ・受け入れやすさのために必要な機能

◆ シンボル性

スタイリッシュな車体や停留所によって、まちの新たな魅力を創出するシステム



◆ わかりやすさ

路線や時刻表の案内がわかりやすく、誰もが簡単に利用できるシステム



走行空間がわかりやすい

案内が誰でもわかりやすい

③ その他公共交通として必要な機能

◆ 環境への配慮

環境にやさしいシステム



環境的にやさしい

◆ 高齢社会への対応（ユニバーサルデザイン）

高齢者などの社会活動の促進できるような、誰もが移動しやすい公共交通システム



全ての人が利用しやすい安全な交通手段の提供により、お年寄りやベビーカーなどでもまちなかを移動しやすくなる。

誰もが安心して利用できる

新たな交通システム導入を検討する際の留意点

A. 都市構造や人の動きに見合った交通

◆ 拠点間の連携を可能にするシステム

- 人の動きとの整合性
- 上位計画・関連計画との整合性
- 都心部と郊外部の連携において全市的な利便性向上が可能

B. 公共交通としての機能向上

◆ 公共交通の性能向上

- 定時性、速達性や利便性の向上
- 交通手段間の連携による広範囲なサービス提供
- シンボル性・わかりやすさ

C. その他公共交通としての必要な要件

◆ その他指標

- 環境的・経済的に持続可能な交通システム
- 誰もが安心して利用できる交通システム

新たな交通システムの必要性（2）新たな交通システムの検討ポイントと位置付け

<概要>

「A.都市構造や人の動きに見合った交通」や「B.公共交通としての機能向上」の点から、都心部の主要拠点間を連絡する基幹公共交通軸上におけるサービスレベルの高い新たな交通システムの導入するとともに、郊外から都心へのアクセス軸を強化し、乗り換えの便利な交通結節点で連携を図ることで、新潟市全体として快適に移動できる交通環境を実現することを目指す。

新たな交通システムの検討ポイント

A. 都市構造や人の動きに見合った交通

A-① 主要な人の動きから見た必要性

▶新潟市中心部及び周辺部での人の動きが多い

対象となる利用者の多い地区を中心に新たなインフラを整備するとともに、その他地区も整備効果を楽しむことができるようにする

A-② 都心内・都心アクセスとの有機的なネットワーク

▶都市圏の将来像での基幹公共交通軸・骨格幹線軸の位置づけ

基幹公共交通軸と骨格幹線軸により公共交通ネットワークを形成し、主要箇所交通結節点を設置し、各軸間で有機的な連携を図る

B. 公共交通としての機能向上

公共交通システムの性能向上からの必要性

▶サービスレベルやシンボル性の向上が必要

新たな交通システムでは、道路上の専用走行空間や道路上方に専用軌道を走行することで、定時性・速達性の向上やシンボル性の向上が可能



在来バス
既設道路を自家用車等と混在して走行
(時速 15km)

新たな交通システムの導入によるサービスレベルやシンボル性の向上

例えば…

BRT、LRT
道路と平行する専用空間を走行
(時速 20km)

モノレール
道路上方の高架軌道を走行
(時速 30km)

今年度検討する新たな交通システムの位置付け

●今年度協議する新たな交通システム

▶基幹公共交通軸に新たな交通システムの導入を行い、郊外各路線からは都心アクセスの機能を強化できるように、交通結節点を整備することとする。



<新たな交通システムの位置付け>

- ◆都心交通(基幹公共交通軸)
都心部の機能強化に資する基幹公共交通軸の形成
⇒新たな交通システムの整備
- ◆都心アクセス
自動車との適切なバランスを図りながら、既存鉄道網や高速バスに加え、骨格幹線の路線バスのサービスを強化する
⇒骨格となる公共交通の利用促進
- ◆都心交通と都心アクセスの交通結節点
交通結節点におけるパーク＆ライドの促進などにより、新交通と骨格となる公共交通の乗り継ぎ利便性を確保
⇒乗継利便性の確保など

<検討のポイント>

- ◆導入区間
利用者数、都市拠点や交通拠点との連携の可能性
- ◆導入空間
道路空間の中での走行空間確保
- ◆サービスレベル
定時性・速達性や利用者の快適性
輸送力の確保、シンボル性、環境
- ◆バスや自動車等との連携
既存バスや自動車などとの連携、郊外からのアクセス性
- ◆事業規模
初期投資額・維持管理費、事業採算性の程度 など